

令和5年度 事業報告書

社会福祉法人 大館感恩講

目 次

法 人 本 部	2
白百合ホーム	4
大館乳児保育園	10
大館市立釈迦内保育園	16
大館市立十二所保育園	27
大館市立東館保育園	29
大館市立西館保育園	31
奨 学 基 金	33
土地貸付・駐車場業	34

令和5年度大館感恩講本部事業報告

1. 事務局体制・経営状況

引き続き専任事務局長を配置し、3名の事務局次長と1名の事務員（いずれも兼務）の事務局体制によって機能を維持している。

理事・監事の改選期にあたり、所要の事務手続きを行った。

指定管理の再指定初年度(令和5年度～13年度)事業は大館市との連携の元、概ね良好に過ごした。大館市との協定書に基づく事業評価（自己評価と大館市所管課評価）については、研修制度の確立と実施が評価されたか2項目がA評価であった。

少子化の傾向は全国共通であり、特に指定管理保育所の近未来について研究を重ねている。

2. 会議の開催

(1) 理事会の開催

☆令和5年6月7日

- 議案第1号 令和4年度事業報告案
- 議案第2号 令和4年度決算報告案
- 議案第3号 理事候補者の推薦案
- 議案第4号 監事候補者の推薦案
- 議案第5号 評議員の解任並びに補充候補者選任案
- 議案第6号 評議員会の招集案

☆令和5年6月15日（書面審議による理事会）

- 議案第7号 評議員の補充候補者推薦案

☆令和5年6月23日

- 議案第8号 理事長の選任案

☆令和6年2月28日

- 議案第9号 令和5年度資金収支補正予算(第1次)案
- 議案第10号 評議員会の招集案

☆令和6年3月25日

- 議案第11号 令和5年度資金収支補正予算(第1～2次)案
- 議案第12号 令和6年度事業計画案
- 議案第13号 令和6年度資金収支予算案
- 議案第14号 評議員会の招集案

(2) 監事会の開催

☆ 令和5年5月19日

- ・令和5年度 事業報告並びに貸借対照表・財産目録・資金収支並びに事業活動収支計算書及び収支計算書の附属明細書
- ・諸会議の開催状況その他人事労務関係全般

(3) 評議員会の開催

☆ 令和5年6月23日

議案第1号 令和4年度事業報告案

議案第2号 令和4年度決算案

(監査報告)

議案第3号 理事の選任案

議案第4号 監事の選任案案

☆ 令和6年3月6日

議案第5号 令和5年度資金収支補正予算(第1次)

令和6年3月29日

議案第6号 令和5年度資金収支補正予算(第1～2次)案

議案第7号 令和6年度事業計画案

議案第8号 令和6年度資金収支予算案

(4) 評議員選任解任委員会の開催

☆ 令和5年6月16日

議案第1号 評議員選任・解任委員会委員長の選任案

議案第2号 評議員の解任並びに補充候補者選任案

3 事業の運営

(1) 会議の開催

☆ 園長会議(毎月開催)

大館市の乳幼児の減少動向と近未来の保育所経営(毎月)

新型コロナウイルス感染症対策(随時)

児童虐待、人権侵害事案に関する協議。意識の徹底

新たな指定管理制度への対応

☆ 主任会議(毎月)

☆ 職員養成施策

研修制度実施要綱に基づき①R(リーダー＝主任候補者)研修・②E(園長候補者)

研修③新任職員研修④3年次研修⑤勉強会を開催

令和5年度 白百合ホーム事業報告

1. 利用者の状況

① 月別在籍世帯数（3月1日現在） 定員充足率 95.8% (世帯)

月日	世帯数	人員	月日	世帯数	人員	月日	世帯数	人員
5.4.1	18	48	5.8.1	19	50	5.12.1	20	52
5.1	19	50	9.1	20	52	6.1.1	19	49
6.1	19	50	10.1	20	52	2.1	19	49
7.1	19	50	11.1	19	50	3.1	19	49

定員充足率 95.8% *定員充足率95.8%は月平均19.16世帯である。

・5年度中の入退所

入所 5世帯13名（入所理由 夫からのDV 2世帯5名、家庭環境3世帯8名）

入所世帯中DV被害者の割合は47.3%(9世帯)であった。(令和6年3月1日現在)

退所 4世帯12名（退所理由 自立2世帯6名、婚姻2世帯6名）

・母子保護の実施機関の内訳（令和6年3月1日現在）

大館市福祉事務所 14世帯38名

他県他市福祉事務所 5世帯11名

19世帯49名

・令和5年度は施設入所に繋がるよう、青森県内福祉事務所7か所、岩手県内福祉事務所11か所、宮城県内福祉事務所1か所の計19福祉事務所、にリーフレットを持って説明とお願いをした。訪ねた福祉事務所以外の県外1福祉事務所から入所があったため、今後も引き続き秋田県内外の福祉事務所を訪問し施設の説明などの活動を行って行く。

・第1子妊娠中の入所・出産は令和4年度2件、令和5年度には1件あった。全国的にも特定妊婦や妊娠中の母子のニーズがあるため支援が求められている。この事例をもとに、全国母子生活支援施設研究大会において、参加した母子支援員が事例と施設機能などについて発表を行った。また「秋田県妊娠SOSネットワーク」の研修会では、この3事例をもとに講演を行った。秋田県内各関係機関からの参加者と、妊娠に関する相談等があった際に状況に応じて施設の紹介を行って頂く連携の確認を行った。

2. 施設の管理

職員配置

施設長	常勤	1名
主任母子支援員	常勤	1名
母子支援員	常勤	2名
主任児童支援員	常勤	1名
児童支援員	常勤	2名
保育士兼母子支援員	常勤	1名
調理員兼保育補助員	常勤	1名
一時預かり事業専任保育士	常勤	1名
保育補助員	常勤	1名
清掃員	非常勤	1名
嘱託医	非常勤	1名
計		13名

3. 職員の研修

関係機関が主催する次の研修に延べ13名が参加した。

月 日	研 修 名	備 考
6月28日(水) ～27日(木)	第44回 全国母子生活支援施設職員研修会	京都市
3月12日(火) ～26日(火)	令和5年度 北海道・東北ブロック母子生活支援施設研究協議会	オンデマンド視聴
10月24日(火) ～25日(水)	第66回 全国母子生活支援施設研究大会	岐阜県岐阜市
9月8日(金)	令和5年度 秋田県母子福祉協議会 現地協議会	秋田わかばハイム
11月24日(金)	令和5年度 秋田県母子福祉協議会 職員研修会	秋田県社会福祉会館
10月16日(月)	第1回母子支援員・少年指導員・保育士 合同分科会	秋田県社会福祉会館
2月7日(水)	第2回母子支援員 少年指導員・保育士 合同分科会	秋田県社会福祉会館

4. 利用者の支援

- ① 全国母子生活支援施設協議会が作成した「母子生活支援施設倫理綱領」の理念の徹底を図り、支援者としての基本的意識醸成に努めた。
- ② 利用者・福祉事務所・担当職員・施設長の四者で支援内容について検討し、自立支援計画策定についての合意形成を行った。計画については約6か月後の見直しを行い状況の把握に努めた。

- ③ 母から意見が言いやすく話し合える機会とするため、毎月の母への伝達事項は個別に行うようにしている。

行事の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染予防に十分留意し、予定した行事についてはその都度対応した

5. 児童の健全育成

専任の児童支援員3名などが、母親の働いている間、学習・遊びを通して健全育成を目指した。特に母親の就労支援の一環としても夜間就労の間、在室児童に対するケアを行った。

また、母親の都合や病気の際には、児童の福祉や母親の静養を確保するために宿直室において職員が児童と過ごし、食事や通学準備などの支援を行った。

- ① 自主学習を進めるために平日帰宅後に学習指導を行ったほか、長期休業日には毎朝学習支援をした。
- ② 第2・第4土曜日以外の毎土曜日「みんなの広場」を開催した。
- ③ 夏休みのラジオ体操会は白百合ホームが先導して、白百合ホーム玄関前で行った。
- ④ 町内において引き続き古神明社の境内を遊び場として開放していただいた。
- ⑤ 法人奨学基金制度により、新入学児童に対して入学お祝い金を贈った。

6. 乳幼児の保育

母親の就労時間の多様化に伴い、児童の発達保障に加えて子育て支援としての保育機能強化を図った。

- ① 施設内の保育室で乳幼児の保育を実施した。就労支援を目的として、保育時間は母の就労実態に合わせて早朝・夜間のほか休日や年末年始にも対応した。
- ② 乳幼児の養育相談、身体測定、病児保育、病後児保育と通院の付き添いを実施した。
- ③ 未就学児童については、大きな集団生活の保育所で社会性を身につけるため通園を勧めた。
- ④ 節分・ひな祭り・こどもの日・七夕・遠足・クリスマス・お誕生会その他の行事を行った。

7. 緊急一時保護

5年度の緊急一時保護の受け入れはなかった。

8. 健康・衛生管理

- ① 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準に基づき、健康診断を2回実施した。
(県総合保健事業団・嘱託医)

- ② 感染症対策マニュアルに基づいて対応システムの確認を行った。コロナウイルス感染症、インフルエンザ対策として玄関に手指消毒装置を設置し、空気清浄機を玄関、集会室、各班に設置し空気加湿清浄機を保育室に設置した。
 - ③ 生活習慣病・感染症・食中毒・風邪の予防等、健康・衛生について、広報誌等で理解を図った。
 - ④ 施設内外の清掃、寝具の日光消毒、常備薬品の点検補充等を実施した。
 - ⑤ 定期的に浴室・遊具等の消毒を実施した。
 - ⑥ 大館市保健センターが行う検診の受診をすすめた。
 - ⑦ 新型コロナウイルス感染症対策として
 - ・非接触型体温計を活用した。
 - ・施設玄関と保育室玄関へサーマルカメラを導入し、体温測定してから施設への立ち入りを認証している。
- ・アルコールによる手指消毒とマスク着用の励行を行った。

9. 災害防止と安全管理

- ① 年度始め並びに利用者異動の都度、防災委員会の編成替えを行い、消防署への消防計画の変更届も行った。
- ② 毎朝、ガス元栓・ストーブの消し忘れ・電気の適正使用等について居室の安全点検を行った。
- ③ 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準に基づき、施設内火災・近火・地震などを想定した避難訓練を毎月実施した。
- ④ 交通事故等災害防止について機関紙等を通じて周知するように努めた。
- ⑤ 施設の総合防災対策として町内に防災協力員5名を委嘱し、有事の際の協力を求めた。
- ⑥ 変電設備や電気設備の定期点検（毎月）を実施した。
- ⑦ 消防設備と自動ドアの定期点検（年2回）を実施した。
- ⑧ AEDを設置し、利用者及び職員の緊急事態に備えている。
- ⑨ 防犯対策に係る「静脈入退所管理システム」、「防犯カメラ」を設置し、不審者等への対策を行っている。なお令和4年度からDV被害者世帯が多く入所したことから、玄関の電子錠を24時間セットし、入館の際には静脈認証と来訪者については内部のモニターを確認して開錠して対応している。
- ⑩ 大館消防署より査察が入ったが、ガスボンベ庫の「火気厳禁」等を表示するプレートが錆びており交換の指示だけであり他の指摘などはなかった。

10. 環境の整備・施設設備・修繕

- ① 施設内外の整理整頓、冬季間の通路の除雪等を実施した。

- ② 退所による畳の入れ替えや襖・障子の張替えをした。
- ③ 居室トイレタンク配管腐食等により配水パイプ交換を2件行った。
- ④ 相談室天井から水漏れがあり、排水管の修理を行った。
- ⑤ 宿直室増築部分の床下ピットから水道給水パイプの漏水があり修理を行った。

1 1. 退所母子に対するアフターケア

退所の際には、退所後も相談や訪問などを行うことが出来る事を伝え、本人の意向を尊重しながらアフターケアを行なった。

- ① 退所者の住宅・転職・子育て・家族関係調整などの相談を受け、支援した。
- ② 退所者・在所者・行政職員・町内関係者・法人役員を交えて「第43回白百合のつどい」を4年ぶりに開催した。
- ③ 退所者に、子育て短期支援事業「トワイライトスティ」の紹介を行った。
- ④ 退所者に年賀状をおくり、安否を確かめ連携を図った。

1 2. 地域社会との交流・施設機能の開放

- ① 利用者全員が地域の一員として町内会に加入した。
- ② 町内会の会合や行事については新型コロナウイルス感染症対策として開催されなかった。
- ③ 大館市の指定を受けて、子育て短期支援事業（トワイライトスティ）及び一時預かり事業を実施し、積極的に地域の子育てを支援した。

トワイライトスティ事業、一時預かり事業利用実績

事業名	利用実世帯数				利用者数
	一般世帯	母子世帯	父子世帯	計	
トワイライトスティ事業	9	7	0	16	536
一時預かり事業	47	1	0	48	681
合計	56	8	0	64	1,217

1 3. 施設及び施設機能の開放

母子生活支援施設に対する理解を深めてもらうために

- ① ボランティアグループ、町内会、母子寡婦福祉連合会その他社会福祉団体・社会教育団体の施設利用について門戸を開いている。
- ② 大学の保育実習生4名、社会福祉士実習生1名を受け入れ指導した。

1 4. ボランティアの受け入れ他

- ① 例年であれば、秋田県麺類飲食生活衛生同業組合大館支部、大館ロータリークラブ、絵夢人倶楽部、その他の個人ボランティアやグループの奉仕を受けていたところであるが、新型コロナウイルス感染症対策のため、来所活動はお断りした。
- ② 利用者および施設に対する寄付金や寄付物品を受け施設サービスに資した。なお、5年度はNPO支援センターなどから食料品他のご寄付を頂き、利用者へ配布した。

令和5年度 大館乳児保育園事業報告

夢中になって遊び 心満ちる子ども～一人一人の遊びの場を保障する援助を目指して～というテーマを保育の重点目標に掲げ取り組んできた。子どものやろうとしている過程を見守り、子どもが拠り所として遊びだす姿を大切にできるように心がけた。子どもの身振りや視線などからやりたい思いを読み取り、満たすための場の保障に努め、認めたり励ましたりする援助を通して、興味や関心が高まり、身近な環境へと自分から関わろうとする主体的な姿につながった。年間の研究計画による実施及び保育の振り返りを重ねることによって、子ども一人一人の内面理解につながり、職員間の研究に対する主題や視点が共通理解に向かい、保育を深める姿勢につながったと考える。また園内保育研究会での話し合いの内容をホールやクラス前に掲示したり、毎月のおたよりで保育の重点目標に対する取り組みを知らせたりすることで保護者への当園の保育に対する理解が深まったと言える。

1. 在籍数及びクラス編成

4月1日、54名で事業を開始した。

令和5年4月1日現在 (定員60名)

クラス名	年齢	園児数(名)	担当保育士(名)
もも組	0歳児	6	4
あか組	0・1歳児	12	4
あお組	1・2歳児	18	3
き組	2歳児	18	3
在籍数 54名・職員数29名(パート職員2名を含む)・嘱託医1名・嘱託歯科医1名			

令和6年3月31日現在の在籍児童数：63名 *平均充足率102.2%

2. 健康及び安全

(1)園児の健康観察の充実と感染症の予防・対策

・ 感染症対策

新型コロナウイルスが5類に変更され、「市子ども課の対応について」を保護者へ配布し、それに則って対応する。

【園児に対して】

登園時の健康チェック、非接触式電子温度計による体温測定と記録。

定期的な換気。各部屋・ホールの空気清浄機の設置。

0歳児おむつ交換場所に空間除菌のジアイーノ設置。

0歳児からの手洗いの励行。手指消毒等。

【保護者に対して】

- ・玄関入室時サーマルカメラによる検温・マスク・手指消毒は保護者の判断で行う。
- ・感染症が発生した場合は緊急メールで保護者・職員に周知する。

【職員に対して】

マスクの着用は引き続き実施。

抗原検査キットを一人一人に配布し、不安を感じた場合は勤務前に家庭で検査するようにし、園内へのコロナウィルスの持ち込みを阻止した。

【感染が疑わしく症状がある場合】

迎えが来るまでの隔離場所の設定。防護服一式を装着し見守り保育をする。

(2) 健康支援

【園児について】

- ・年2回嘱託医の協力のもとで全園児健康診断を行い、0歳児は1歳になるまで毎月0歳児健診を行った。保護者に結果を配布した。
- ・毎月1回、身体測定（身長・体重）を行い、個人の連絡帳に記入し保護者に知らせた。
- ・毎月1回給食会議を開催し、給食担当者を交えて、一人一人の子どものカウプ指数をもとに食事と健康、食育について、食物アレルギー児の要配慮事項について話し合いクラスとの連携を図った。
- ・年1回、嘱託歯科医の協力のもとで全園児の歯科健診を受け、保護者に結果を配布した。
- ・適時に感染症情報等を保護者に伝えた。

【職員について】

- ・毎月調理担当者・調乳担当者の検便を実施した。
- ・毎月調理担当者のノロウィルス検査を行った。
- ・年1回、全職員の検便を実施した。
- ・年1回、職員の健康診断(生活習慣病予防検診を含む)を行った。「要精検」との医師の診断があった場合は病院受診を勧め、該当者は受診した。
- ・年1回、全職員がインフルエンザ予防接種を受けた。

【その他の活動】

- ・風邪や感染性胃腸炎、インフルエンザ等の感染症の予防に努め、手洗い・園内や玩具の消毒を徹底し、抵抗力の弱い子どもたちを養護した。
- ・嘱託医の指導のもと、保護者に対して予防接種の意義を説明し接種を勧めた。
- ・嘔吐をした際の対応キットを各部屋に用意し、毎月嘔吐処理対応訓練を行った。
- ・重篤なアレルギー症状に陥った場合を想定して、エピペンの使用訓練や救急車

の要請訓練、心肺蘇生法の手順の確認など、毎月緊急時対応訓練を行った。

【感染症の集団発生について】

- ・新型コロナウイルス～R5.9.5～9.15 15名(職員2名を含む)の罹患。保健所・嘱託医に届け出をし、指導を仰ぐ。園内消毒。保護者への注意喚起。
- ・手足口病 ～R5.11.8～11.27 18名の罹患。保健所・嘱託医に届け出をし、指導を仰ぐ。園内消毒。保護者への注意喚起。
- ・インフルエンザA型～R5.12.27～R6.1.4 14名(職員4名を含む)の罹患。保健所・嘱託医に届け出し、指導を仰ぐ。園内消毒。保護者への注意喚起。

(3)安全管理

①安全で快適な保育環境の提供

- ・安全点検表を用いて、毎月初めを「安全点検日」としてクラスの輪番制による安全点検を実施し、要改善箇所は速やかに改善し、事故防止に努めた。
- ・定期的な園庭の芝生の手入れと肥料の散布をした。
- ・各クラスの砂場の砂の補充と戸外での体を動かす遊び等のため園庭を整備した。
- ・畑を整備し、子どもたちと野菜の栽培や、稲作り、花壇に花の苗植えを行った。各クラスで子どもの目につくところに植え、野菜や花の生長に触れ合うことができるようにした。収穫後はクッキングをして食育活動をした。
- ・季節変化による危険箇所への対応
ベランダや園庭に遮光ネットを取り付け、熱中症・紫外線対策をした。
積雪期はベランダ部分に仮設屋根を取り付け、避難路の確保に努めた。
業者による除雪・排雪をし、安全な環境を整えた。
- ・10月末より園付近に熊出没があり、散歩を中止した。
園庭の柿の木の伐採をし、熊のエサにならないように安全な環境を保った。
園庭は柵で囲ってあるが出る際は鐘を鳴らし、熊よけ鈴を避難袋に取付け避難の際の安全にも配慮した。

② 事故防止及び安全対策に対する研修

- ・ 毎月1～2回、リスクマネジメント会議の開催(全保育士・保育補助の参加)
睡眠時・食事・散歩・水遊び・積雪時などの危険予知訓練やヒヤリハット検証・事故報告書による事故分析をし、考えられる防止策を話し合い、クラス単位での行動目標を決め、事故防止に備えた。
- ・ 今年度は特に全国で起きた保育園等に関係する事故・事件に関しての事案をその都度取り上げ、当園に当てはめための防止策などを話し合い、職員の行動目標を決め実施した。

【怪我について】

上記の研修を行い、十分気をつけて保育していたが日常的な小さな怪我はあった。事故報告書により原因を取り除いたほか、全職員に情報を提供して共通理解を図った。

③ 避難訓練

- ・ 4月のオリエンテーションによる役割確認に始まり、近火・園内火災・不審者対応・地震・竜巻・ミサイル対応等の、「災害形態」や早朝・遅番・午睡時・夕方・土曜日・休日等の「職員体制」や「子どもの生活の実態・季節の変化」を想定して毎月1回以上（年15回）実施した。

うち1回は消防署員立会いの指導があり、水消火器による消火訓練を行った。

保護者が登録しているメールアドレスに、緊急メールの同時配信訓練を行った。その際保護者への引き渡し訓練も実施した。毎月、消火器の使用訓練を行った。

④ 専門業者による安全管理

- ・ 毎月1回調理室の害虫駆除の他、園内ねずみ駆除のため11月から3月までの点検を行った。
- ・ 食器保管庫・スチームコンベクションのリース契約終了に伴い、新規機材をリース契約した。年1回「食器洗浄機」「食器消毒保管庫」を点検した。
- ・ 年2回「自動火災報知機・消防設備」を点検し、消防署に報告した。不良箇所はその都度適切に修理した。
- ・ 年2回自動ドアを点検し保守管理に努めた。
- ・ 専門業者により、屋外固定遊具等の点検をした。

3. 子育て支援

(1) 行事、地域活動について

- ・ 行事・地域活動には保護者の協力を得て、今年度計画したものは全て実施できた。運動会・親子レクリエーションは人数制限なしで開催したが、他の行事・地域活動の開催は会場の広さにより、人数制限をして実施した。
- ・ 泉町地域ふくしセンターさんとの交流は感染症の流行により中止となり、おたよりでの連携のみとなった。
- ・ 小・中学生による子どもハローワークは11名が参加し、高校生のインターシップを受け入れ、地域の学校教育への協力を実施した。

(2) 子どもへの虐待防止と保護者支援について

- ・ 毎月「気づきシート（虐待等チェックリスト）」で検証して、虐待の把握と対応

に努め、支援の質の向上を図った。

- ・ 保護者の精神面・体調面による子育て不安に対して受容的援助をした。
- ・ 全国で起きた保育士等の「子どもに対する不適切な対応」について、職員間で検証し、倫理感の共有を図った。

(3)他機関との連携

- ・「気になる子ども」に対する支援として、市児童相談係との定期的な情報交換と指導の助言などの連携を図った。
児童発達支援施設ふぁみーゆの利用児に対して、活動の様子等の連携を取り合った。
- ・ 養育困難な家庭に対して、北児童相談所と市児童相談係との連携を図った。

4. 職員の資質向上

(1)園評価の実施

- ・ 保護者アンケートを行い、必要な改善を図るとともに意見に対する園の考え方や反映について保護者に丁寧に伝えた。
- ・ 保護者や地域関係者による「保育園評価委員会」によって、保育の視察等を通じて意見を頂き、運営の向上を目指した。評価はA～Cの3段階のうち、Bとされた。
- ・ 職員による自己評価・園評価委員の意見・保護者アンケートからの全ての結果を総括し、改善に向けた方策を令和6年2月「大館乳児保育園自己評価の結果報告」として保護者に配布し開かれた運営に理解を求めた。

(2)苦情解決制度による保護者対応の見直し

- ・ 苦情解決制度のポスターを掲示し、保護者からの意見を集約し、園としての考え方や改善結果を保護者に周知するシステムを確立している。今年度は苦情解決の申し出やご意見BOXによる意見等はなかった。

(3)職員による外部研修の確保

- ・ 秋田県教育委員会をはじめ、各行政機関や関係団体主催の研修会は、秋田市・北秋田市中心の研修が開催され参加した。リモートでの研修も多く参加した。研修結果は復命書の回覧を主体に、全職員が共通理解するように努めた。

5. 市子ども子育て事業の状況

(1) 休日保育の利用状況

(名)

月	月の日数	利用者数		平均	月	月の日数	利用者数		平均
		当園	他園				当園	他園	
4	6	23	8	5.2	10	6	16	3	3.2
5	7	27	4	4.4	11	6	15	2	2.8
6	4	14	4	4.5	12	4	14	4	4.5
7	6	20	2	3.7	1	5	14	4	3.6
8	5	18	2	4	2	6	26	2	4.7
9	5	17	5	4.4	3	6	21	3	4
開所日数・利用者の合計(名)及び平均(名)						66	225	43	4.1

※昨年度に比べ利用人数が減少した。当園児の利用者は増加傾向にある。

(2) 延長保育の利用状況

AM7:00～7:30の利用状況

(名)

月	月の日数	利用者数	平均	月	月の日数	利用者数	平均	
4	24	0	0	10	25	10	0.4	
5	24	0	0	11	24	13	0.5	
6	26	4	0.2	12	25	11	0.4	
7	25	6	0.2	1	23	12	0.5	
8	26	10	0.4	2	23	11	0.5	
9	24	9	0.4	3	25	14	0.6	
開所日数・利用者の合計(名)及び平均(名)						294	100	0.3

PM6:30～7:00の利用状況

(名)

月	月の日数	利用者数	平均	月	月の日数	利用者数	平均	
4	24	10	0.4	10	25	4	0.2	
5	24	3	0.1	11	24	2	0.1	
6	26	2	0.1	12	25	4	0.2	
7	25	4	0.2	1	23	7	0.3	
8	26	7	0.3	2	23	9	0.4	
9	24	2	0.1	3	25	7	0.3	
開所日数・利用者の合計(名)及び平均(名)						294	61	0.2

※昨年度に比べ早番・遅番共に大幅に利用人数が減少した。

令和5年度釈迦内保育園事業報告

「いきいき わくわく 意欲あふれる子ども」を、保育目標に掲げ、保育活動を展開することができました。園内研究テーマは「自分の思いを表現する」「自分を発揮できる」子どもの姿に向けていきたいという願いを持ち「自分大好き 友だち大好き 大好きがあふれる子ども」として研究を進めてきました。しかし、自分の気持ちを主張できる子どもがいる一方で、控えめな子どももおり、自己表現や自己発揮につながるための手立てとして動画を活用して子どもの育ちを見取り、そこから次の遊びに必要な環境について話し合い実践していくことで育ちの再確認となり、手ごたえが感じられています。

1. 児童の入所状況（定員75名 利用定員72名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
1歳	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
2歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
3歳	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
4歳	16	16	16	16	17	17	17	17	17	17	17	17
5歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
合計	71	71	71	71	72	72	72	72	72	72	72	72

うち 障害児3名 定員充足率99.5%

2. 職員の配置状況

園長（1） 主任保育士（1） 保育士（12） 保育補助（2） 調理員（3）
 事務（1） 嘱託医（1） 嘱託歯科医（1）

3. 保育環境の整備等

- （1） 4月1日点検にて少量のガスヒートポンプの配管からガス漏れあり、5年4月11日（仮工事）4月28日（復旧工事）を行う
- （2） 生垣剪定作業 9月12日

4. 職員について

- （1） 保育士1名5年4月17日～5月8日まで右肩の石灰化のため休暇取得
- （2） 調理員サルモネラ感染症のため8月24～9月1日、10月23日～11月1日まで休暇取得

5. 感染症への対応

- (1) 手洗い・マスクの着用・手指消毒・換気等基本的な感染対策を徹底した。
- (2) 体調不良があるときは登園、出勤をしない（登園、出勤前の健康チェック）
- (3) 職員・来訪者の検温、消毒、体調の確認
- (4) 行事の見直し～内容の再検討
- (5) ワクチン接種の推奨

6. その他

- (1) 感染症の集団発生・・・コロナ・インフルエンザ
5年8月28日コロナ罹患者3名。8月29日集団発生となる。9月13日より罹患者30名（職員11名含む）全員登園。報告終了。
6年1月15日、5歳児5名、1歳児1名、4歳児1名インフルエンザAに罹患。16日集団発生となる。25日より17名（職員2名を含む）の罹患者全員登園。報告終了。
- (2) 怪我について 大館市への事故報告について
令和6年2月13日、3歳児の保育室にて片付けの際バランスを崩し前方へ転倒。ロッカーの淵に右臉をぶつけ裂傷し、翌日眼科を受診し4針縫合。眼球や角膜の異常なく元気に登園。1週間後抜糸となる。
十分気をつけて保育していたが、日常的な小さな怪我はあった。
ヒヤリハットの様式を新たにし、小まめにヒヤリハット報告を提出することで、事故の未然防止に努めた。
毎月、事故防止会議を行い、事故報告書により話し合い考えられる防止策を講じた。保護者には丁寧に説明、お詫びし全職員で共通理解した。
- (3) 子どもへの虐待について
登園時子どもの様子を確認し、子どもへの虐待が疑われた場合は保護者に説明を求め、必要に応じて関係機関（児童相談所児童福祉司、児童家庭相談員）と連携して対応することになっている。
- (4) 園評価の実施と職員の専門性の醸成
保護者アンケートや自己評価を行い、必要な改善を図るとともに意見に対する、園の考え方や反映について保護者に丁寧に伝えた。
保護者や地域関係者の方々に園の外部評価をして頂き、ご意見を基に子ども課課長補佐、保育アドバイザーから保育指導を頂きながら、保育の質の向上を目指した。
関係機関とも連携し子どもの育ちを保障しながら、特別支援が必要な園児の全職員の共通理解と比内支援専門監による指導・助言を頂いた。

(5) 行事、地域活動について

地域活動はコロナが続いたため、数年間規模の縮小や中止をしていたが、園内の行事はコロナ前と同様に開催することができた。また、地域の施設訪問や、地区の文化祭等に参加した。

令和4年度より大館市の「幼保小の架け橋プログラム」のモデル地区として小学校や地域の子ども園と交流し、学びのつながり、育ちのつながりを実践している。令和6年度は検証に入るため今後他施設からの訪問が増えると予測される。

7. 主な取り組み

(1) 職員のスキルアップ

① 園内研究

② ミーティング時間の短縮に努めながら、ノートを活用し確実に情報を共有し共通理解を図った。

③ 園内外の研修

保育者のキャリアアップ研修については、当該研修に参加し選択した1領域についてオンライン研修を受講した。

④ 交流活動

釈迦内小学校や向陽こども園、同地域の郵便局や公民館等と様々な行事を通して交流を行った。幼保小の架け橋プログラムでも、年間を通して交流計画が作成されており、小学校だけでなく地域の方に温かく見守られながら、子どもたちが育っていると感じている。

8. 避難訓練実施記録

月 日	想 定	実 施 内 容	反 省
4月11日	10:20 保育中 各保育室	<ul style="list-style-type: none">・非常の合図を知る。・非常の合図や避難棋を知る。・避難用具に慣れる。・避難訓練の意味を知る。・避難時の約束を知る。・保育士等と一緒に非常の合図を聞く。・誘導ロープにつかまって避難する。・非常のベルや放送を聞いてから、避難旗を持った保育士等の所に集まり避難することを知る。・視覚教材で災害の怖さを知る。	年度始めの訓練であったため、それぞれの役割分担の確認が必要であると思った。戸外からホールに集まる際（室内避難の際）スムーズに避難するには、どこからが良いのか、放送やベルが聞き取りにくい場所を周知しておき、その場合はどのように伝達するのかを確認しておく必要があると思った。「あ、お、は、し、も」の約束は覚えている子が沢山いた。繰り返し声に出して確認する機会を作っていきたい

<p>4月20日</p>	<p>10:00 保育中 地震 (中震) 各保育室 ↓ ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【あ、おはしも(慌てない、押さない、走らない、しゃべらない、もどらない)】を知る。 ・火事の際はハンカチや衣服で口と鼻を抑えることを知る。 ・非常のときは靴を履いて避難することを知る。 ・非常の合図を知る。 ・指示に従い、地震に対する避難の仕方が分かる。 ・非常の合図で保育士等の側に集まる。 ・おんぶや避難車で避難する。 ・避難前に教材で地震について知る。 ・机の下に素早く入り、「できるだけ机の脚をつかむ。 ・机がない時は保育士等の側に集まり、ダンゴ虫になって頭を押さえてしゃがむ。 ・内ズックを履いて避難する。 	<p>と思った。</p> <p>ベルの音に泣き出す子もおらずスムーズに避難できていた。</p> <p>戸外ではベルの音が小さく聞こえづらかったようだったが、放送の声は聞こえるようなので2回繰り返すことで、確実に伝わるのではないかと思う。</p> <p>地震の約束を覚えている子もあり、机の下の脚を掴んで頭を手で隠す子が多かった。「あ、お、は、し、も」の約束を再確認できた。</p>
<p>5月8日</p>	<p>17:45 保育中 (室内) 火災 (遠火) ↓ 各活動場所 (部屋の出口の近くで待機)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図に慣れる。 ・身近にいる保育士等の指示に従って緊急避難する。 ・非常の合図で保育士等の側に集まる。 ・おんぶや避難車で避難する。 (すぐに逃げられるよう非常口の近くで待機) ・内ズックのまま、ハンカチや衣服で口と鼻をおさえ低い姿勢で避難する。 ・遊具を持たずに「あ、おはしも」で避難する。【あ、おはしも(慌てない、 	<p>夕方の手薄になった時間での避難訓練。予告有であったので、放送を入れるが、スイッチがOFFになっていたことで、放送が聞こえなかったとの指摘があった。常にONにしておく必要性があると感じた。</p> <p>子どもたちは、担任以外の保育士等にも不安を覚えることなく、近くの保育士等の所にしっかり集まることができていたと感じる。</p>

5月24日	10:50 風水害 保育室 ↓ ホール 旧園舎跡地	<p>押さない、走らない、しゃべらない、もどらない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図で誘導に従う。 ・合図を聞いて身近にいる保育士等の指示に従う。 ・素早く身支度をする。 ・風水害について知る。 ・雨合羽を着用させてもらう。 ・おんぶや避難車で避難する。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・保育士等に援助してもらいながら、また、自分で、慌てずに雨合羽を着用する。 ・お話や紙芝居、ビデオ等視聴覚教材を使い、風水害の怖さを知る。 	<p>夕方などの手薄な時間は人数チェックや顔を見ながらの点検をしっかりと行い、子どもの安全を第一に考え、保育士間で声を掛け合いながら対応していきたい。</p> <p>クラスによっては食事をしている時間の避難訓練となる。雨合羽の着用慣れていない子どももいるクラスもあり、遊びの中などで着用しておく必要があると感じた。</p> <p>避難先が旧園舎跡地だったので、未満児クラスは後日、担任間で避難の方法を確認し、現地に行くことにした。</p>
6月16日	10:00 保育中 竜巻 室内 各部屋等 ↓ (ホールへ移動)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士等の誘導に従う。 ・合図を聞いて、身近にいる保育士等の指示に従い機敏に行動する。 ・竜巻の恐ろしさを知らせ安全な場所に避難する。 ・保育士等の誘導に従い、小さい部屋に避難する。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・お話や紙芝居・DVD等の視聴覚教材を使って、災害の怖さを知る。 	<p>各クラス、窓際から離れ安全な場所に移動し、頭を隠し身を守る行動ができていた。子どもたちが日々の訓練が身についてきていて、安全に避難する行動（ダンゴムシポーズ、保育士等の話を聴くなど）が分かり落ち着いた行動がとれるようになっている。非常時は避難路を塞がないように、靴を室内で履くなど対応が取れるようにしたらどうか等の反省もあり、スムーズに避難できるよう周知していく。言葉だけではなく、紙芝居等を通して防災や防災訓練の大切さを伝</p>

			えていきたい。
6月29日	15:00 火災 (遠火) 保育室 ↓ ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図を聞いて保育士等の誘導に従う。 ・目覚め直後、どこにいても合図を聞き、身近にいる保育士等の指示に従う。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・泣かずに着衣の介助をしてもらう。 ・泣かずに身支度をしたり、援助してもらい避難する。 	<p>午睡からの目覚めの時間であったが、不安を感じる子は少なかったと思う。以上児は、保育士等の声かけで安心し、指示を聞き非難することができたと感じた。</p> <p>未満児も、保育士間で連携を取りながら避難していた。前回の反省を踏まえ、スムーズに避難できるようにしたクラスもあり全体的に時間はかからず集まることができていたと思う。</p>
7月11日	10:45 保育中 火災 (遠火) (遠火) 各クラス遊んでいる場所 ↓ 玄関前 (ポーチ)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の合図に慣れる。 ・非常の合図や避難場所をよく聞き手順よく避難する。 ・非常の合図で保育士等側に集まる。 ・おんぶや避難車で避難する。 ・非常の合図とともに、保育士等の話を静かに聞く。 ・遊具などを持たずにハンカチや衣服で口と鼻を覆い外靴を履いて避難する。 	<p>全クラスが保育室からの避難となる。放送からのスタートと言うことで、未満児は慌てることなく避難へと向かうことができた一方でベルではない放送放送そのものを聞くという意識が必要だと感じたクラスもあった。</p> <p>今後の訓練の中で、放送への意識という部分にも注目していきたい。各クラスともに、職員間で声をかけ合い、連携が取れていたと感じた。子どもを守るため、職員間の連携や、日々の保育の中での習慣づけ（ズックのはき方等）を繰り返し大切にしていきたい。</p>

8月18日	10:00 保育中 総合訓練 地震（強震） ↓ 火災 （給食室） ↓ 戸外 または各保育室 ↓ 第1コース（釈迎 内小校庭）	・非常の合図を聞いて保育士等の指示に従って避難する。 ・室内外、それぞれの場所に応じた適切な避難方法を理解する。 ・非常の合図で保育士等の側に集まる。 ・おんぶや避難車、誘導ロープ等で避難する。 ・地震から火災の避難行動を知る。 ・消火活動や視聴覚教材を見たり、消防署員の話の聞いたりする。	給食室からの出火の際には、避難ルートを職員間で声を掛け合いながら落ち着いて対応することができていた。未満児は保育士等が側に居ることで安心して参加することができ、誘導や避難もスムーズに行うことができた。 以上児は煙体験に参加し、ハンカチの必要性を再確認することができたので、この機会にポケットに入れて登園することを習慣づけていけるようにしたい。 今回は小学校グランドへの避難であったが、緊急時はあらゆる事態を想定し、臨機応変に対応できるようにしていきたい。
9月19日	15:00 風水害 保育室 ↓ 玄関 ↓ 旧園舎跡地	・非常の合図で泣かずに起きる。 ・合図を聞いて身近にいる保育士等の指示に従う。 ・素早く身支度をする。 ・風水害について知る。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・泣かずに起きて着衣の介助をしてみよう。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・泣かずに起きて身支度したり、援助してもらい避難する。 ・素早く身支度し避難する。 ・お話や紙芝居、ビデオ等視聴覚素材を使い、風水害の怖さを知る。	当日雨が降り続けていたため、旧園舎まで避難できないと思ったが、ちょうど雨が小降りになり、2歳児と以上児クラスで避難することができた。道路は冠水することが予想されるため、学校の中を通るなど危険を予想しながら避難することができ、また、2歳児3歳児を間にして歩くことができたと思う。今回は雨が上がったこともあり、合羽の着用はクラスによって違ったが、合羽を身に着けた時のおんぶの仕方や長い距離を歩くなど、経験していかなければならないと思う。
10月27日	11:30	・非常の合図を聞いて保育士等の誘導に従う。	近火という設定であったが、各クラス落ち着いて避難することができてい

	<p>昼食時 火災 (近火) 各保育室 ↓ 第1コース (校庭)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図や避難場所をよく聞き手順よく非難する。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・非常の合図で保育士等の側に集まる。 ・おんぶや避難車で避難する。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・食べるのをやめて、素早く避難する。 ・ハンカチや衣類で鼻と口を押え『あ、おはしも』で素早く避難する。 	<p>た。手やハンカチで口や鼻を押さえて避難する姿も見られ、訓練の積み重ねが生きていると感じた。</p> <p>給食時でたべている子、食べ終わった子などさまざまであったが、保育士等の誘導に従っていた。各担任の先生から、ハンカチを取りに戻ったり、内靴のまま外に出ることを戸惑ったりする子がいたという反省から、緊急時には避難を優先することの大切さを子どもたちに伝えたい。</p>
11月6日	<p>10:00 保育中 地震 (強震) 保育室 ↓ ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士等の誘導に従う。 ・保育士等の指示に従い、騒がず静かに行動する。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・落ち着いて静かに避難する。 ・保育士等の誘導に従い、静かに避難する。 	<p>これまでの避難訓練が身につけているので、ベルを聞くとすぐに保育士等の下へ集まることができていると感じた。</p> <p>クラスごとに居る場所は違っていたが、静かに放送を聞いて行動することができていたので、良かったと思った。</p> <p>ちびっこ広場へベルの音が聞こえなかったという事だったので、ベルの音が外へも聞こえるように放送を「オン」にする等、考えていくことが必要だと感じた。</p>
12月6日	<p>8:00 職員の手薄な時間帯 (朝) 火災 (遠火)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時の合図を聞いて保育士等の誘導に従う。 ・職員の少ない時間帯での避難の仕方を知る。 ・担任以外の保育士等の誘導に従い非難する。 ・非常の合図で保育士等の側に集まる。 ・おんぶや避難車で避難する。 	<p>もも組とホールでの早い時間帯であったため、ベルは鳴らさず「火事ぶれ」にて行う。担任以外の保育士等の話もよく聞き、側に集まったり、ジャンパーを着用したりすることができた。</p> <p>0.1歳児も泣かずに避難することができた。訓練中に登園した子どもたちには声をかけ、安心してもらうようにした。</p>

	各保育室 ↓ ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・ハンカチや衣服で口と鼻を押さ低い姿勢で避難する。 ・遊具を持たずに『あ、おはしも』で避難する。 	<p>遠火と言うことで、慌てずに準備して、避難することを確認することができた。</p> <p>ただ、普段の訓練ではベルや放送で知らせていたが、今回は肉声による火事ぶれだったため、子どもたちの緊張感がいつもより足りなかったように感じた。</p>
1月 5日	<p>10:00 自由な活動 時間 火災 (近火) ↓ 保育室 ↓ ポーチ脇の 駐車場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図を聞いて保育士等の誘導に従う。 ・保育士等の指示に従って防寒具を着用して避難する。 ・積雪時の避難の仕方を知る。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・防寒具の着用の介助をしてもらう。 ・泣かずに防寒具を着たり、援助してもらい避難する。 	<p>年も明け「避難訓練です」と言わずに行う。近火であり防寒具の着用や履物は、各クラスの先生の判断に任せる形となった。反省では、各担任が子どもに何を優先にすべきか考えたという意見が多く、考えて避難に導くことはできたことは良かった。</p> <p>保育士は慌てず、落ち着いて誘導する事こそが、安心安全につながると感じた。</p>
2月 14日	<p>10:30 保育中 (室内・室外) 地震 (強震) 給食室から火災 ↓ 保育室 ↓ 玄関前駐車場 ↓ 山神台町内 会館前</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士等の誘導に従う。 ・それぞれの場所に応じた適切な避難方法を知る。 ・担任以外の保育士等の誘導にも従う。 ・室内外、それぞれの場所に応じて避難する。 	<p>強震から近火という想定での訓練。園庭、保育室内など、それぞれの場所からその場に応じた避難方法で、迅速に行動することができていたように思う。</p> <p>山神台町内会館までは、以上児・未満児、二手に分かれて避難した。避難経路を確認することができて良かった。</p> <p>園外への避難は、周囲に安全など特に注意が必要なことや、職員間で連絡が取れるよう携帯電話を所持することの大切さも感じた。</p>

3月12日	15:35 午睡明け (着替え・排泄 おやつ) 火災 (隣火) 各保育室 5歳児・ホール ↓ (車寄せ・ポー チ)	・非常の合図を聞いて保育士等の指示に従って避難する。 ・非常の合図や避難場所をよく聞き手順よく避難する。 ・非常の合図で保育士等の側に集まる。 ・おんぶや避難車で避難する。 ・非常の合図とともに、保育士等の話を静かに聞く。 ・遊具等を持たずにハンカチや衣服で口と鼻を覆い避難する。	午睡後の慌ただしい時間を想定しての訓練で、隣火となると急ぐ必要もあると感じた。廊下においてある物がたくさんあり、避難する際に狭いと感じた。時期的な物もあるが、できるだけ廊下を広くして使えるよう工夫していきたい。風向きによってはもっと遠くへ避難することも想定した訓練をしていきたい。
3月14日	不審者訓練	・保育士等の誘導に従う ・保育士等の筋に従い、騒がず静かに行動する。 ・不審者の怖さを知る。 ・合言葉を聞いて保育士等の側に集まる。 ・落ち着いて静かに避難する。 ・保育士等の指示に従い、静かに避難する。 ・不審者についての話を聞いて、怖い大人もいることを知る。	保育園内に入れる場所を探しながら、園庭から給食室の脇の窓を開けてみた。全ての窓は季節がら施錠して合っていたが、夏など気温が高く窓を開けている場合もあるため、留意しておかなければならないと感じた。窓を割って侵入することも考えられるため、様々なパターンの訓練の方法、不審者への対応等イメージしておく必要があると思う。

9. 保健衛生管理について

(1) 園児について

- ・年2回梅内嘱託医の協力のもとで全園児の健康診断を受けた。
- ・毎月1回、身体測定(身長・体重)を行った。
- ・年1回、古田嘱託歯科医の協力のもとで全園児の歯科健診、保護者と共に虫歯予防教室での予防法、正しい歯磨きの仕方の指導を受けた。
- ・適時に感染症情報等を保護者に伝えた。

(2) 職員について

- ・毎月調理担当者・調乳担当者の検便を実施した。
- ・年3回、全職員の検便を実施した。

- ・年2回、職員の健康診断を行った。
- ・年1回、生活習慣病予防検診（希望者のみ）を受けた。
- ・年1回、全職員がインフルエンザ予防接種を受けた。

10. 施設運営の検証と改善

- ・自己評価と保護者アンケートを実施し、その結果を踏まえて更なる運営向上に向けて取り組んだ。保護者アンケートの内容と対応結果を保護者に周知し、開かれた運営に理解を求めた。

11. 安全への配慮

- ・安全点検表を用いて、毎週金曜日を「安全点検日」として担当者による安全点検を実施し、冬期間以外は砂場消毒を実施した。
要改善箇所は速やかに改善して事故防止に努めた。また、戸外点検を毎週月曜日に行い安全管理に努めた。
- ・専門業者により毎月1回「ねずみ・害虫防除」を行った。
- ・ヒヤリハットによる事故の検証・対応・対策・再評価を見出すことで事故防止に努めた。危機意識を高めるためにも、月1回事故防止対応研修を行った。
- ・専門業者により、年2回「自動火災報知機・消防設備」を点検し、消防署に報告した。不良箇所はその都度適切に修理した。
- ・専門業者により、屋外固定遊具等の点検をした。

12. 施設運営の検証と改善

- ・自己評価と保護者アンケートを実施し、その結果を踏まえて更なる運営向上に向けて取り組んだ。保護者アンケートの内容と対応結果を保護者に周知し、開かれた運営に理解を求めた。

令和5年度十二所保育園事業報告

1. 児童の入所状況（認可定員 50名 利用定員 40名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1歳	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
2歳	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3
3歳	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
4歳	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5
5歳	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	8
合計	30	31	31	31	31	31	31	31	31	29	29	29

うち 障害児保育2名 定員充足率 76.0%

2. 職員の配置状況

園長（1） 主任保育士（1） 保育士（7） 保育補助員（1）
 事務員（1） 調理員（2） 代替調理員（1） 嘱託医（1） 嘱託歯科医（1）

3. 保育環境の整備

- ① 給湯器交換
- ② 扇風機交換（天下町児童館より3台）
- ③ FFストーブ故障で真中保育園より1台
- ④ AEDのバッテリー交換 消火器の交換 エアコンのリモコン交換

4. 職員について

職員の変動はなし。

5. 新型コロナウイルス感染症への対応

- （1） 手洗い・マスクの着用を含む咳エチケット
- （2） 園内・手指消毒・定期的な換気・密にならない。玄関での受け渡し。
- （3） 体調不良のときは、登園・出勤をしない。（登園、出勤前の健康チェック）
- （4） 職員・来訪者の検温、消毒、体調の確認
- （5） 各クラス空気清浄機、加湿器設置、非接触式電子体温計で対応

6. その他

- （1） コロナ集団発生（8月29日から9月6日）
- （2） 熊出没（9月～12月）
- （3） 大館市への事故報告について なし

(4) 主な取組み

① 職員のスキルアップ

- ・保育目標・重点目標を意識した保育が展開できるように、園内研究や園内研修に取り組んできた。特に園内研究では、「思いっきりやってみよう～わくわくがいっぱい～」をテーマに研究を進め、豊かな経験を支える保育のあり方について、取り組んできた。ファシリテーターの育成も含め、保育の展開や環境作り関わり等を研究し、さらに、保護者との共有を図り、保育の向上を図った。
- ・園内研修での事故防止研修では、ヒヤリハットを増やすことを意識して、改善後の対応や実施訓練等を行った。
- ・個別の支援が必要な園児については、比内支援学校の専門監、療育センターの藤原専門監による、発達支援の指導助言を受けた。

② 業務組織の改善

- ・以上児会議、未満児会議を職員会議に連動させ、分掌のリーダーとしても積極的に取り組んだ。

③ 園内外の研修

- ・キャリアアップ研修については、該当研修に参加し研修報告を行い、内容の共有を図った。

④ 交流活動

- ・小学校、中学校との交流は、コロナ以前のように実施できた。教職員にも何度か交代で足を運んでいただき、情報提供ができた。
- ・地域の施設訪問は、コロナ禍で実施できなかったが、園児手づくりのプレゼントを4施設に届け喜ばれた。
- ・地域の行事には、小・中学生と一緒に準備から参加できた。

⑤ 園評価の実施

- ・保護者アンケートや自己評価を行い、園として必要な改善を図ると共に意見に対する園の考え方や改善点について保護者に丁寧に伝えた。
- ・保護者や地域関係者による「外部評価」によって、保育の視察等を通して、ご意見を頂き、運営の向上を目指した。

令和5年度東館保育園事業報告

1. 児童の入所状況（認可定員60名 利用定員30名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1歳	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
2歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3歳	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
4歳	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
5歳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24

うち 障害児2名 定員充足率80.0%

2. 職員の配置状況

園長（1） 主任保育士（1） 保育士（6） 保育補助員（1） 調理員（3）
事務員（1） 清掃員（1） 嘱託医（1） 嘱託歯科医（1）

3. 保育環境の整備等

- (1) 保育室・ホールのストーブ計3台交換
- (2) 園庭固定遊具～撤去：リングトンネル 交換：滑り台
- (3) ホール電球を全てLED電球に交換
- (4) 厨房エアコン交換
- (5) 厨房食器乾燥保管庫修理
- (6) 以上児用トイレの凍り止めバルブ交換

4. 職員について

- (1) 2/29 職員の胸椎椎体骨折（入院・自宅療養）

5. 新型コロナウイルス感染症への対応

- (1) 手洗い・マスクの着用を含む咳エチケット
- (2) 園内・手指消毒・定期的な換気・密にならない・玄関での受け渡し対応
- (3) 体調不良があるときは登園、出勤をしない（登園、出勤前の健康チェック）
- (4) 職員・来訪者の検温、消毒、体調の確認
- (5) 各クラス空気清浄機、加湿器、非接触式電子温度計の設置
- (6) 毎日の環境消毒と罹患時の入念な消毒の実施
- (7) 保護者への感染症情報の提供

6. その他

- (1) 感染症の集団報告なし
- (2) 受診に関わる事故はなし。保護者の心情に寄り添った対応の確認と実行。

7. 主な取り組み

(1) 職員のスキルアップ

① 園内研究

- ・園目標を基本とした重点目標における研究協議を進めていく中で、保育を語り合う楽しさを感じ意欲的に取り組む職員が増えた。園内保育参観や保育の動画撮影・視聴を通して保育の振り返りを行うことで活発な意見交換が図られ、職員の資質向上につながった。

② 業務組織の見直しと実践

- ・クラス運営の他、各分掌の役割を明確にし、それぞれが責任をもって業務に臨んだ。職員会議のスムーズな進行や職員間の様々な共通理解につながっている。

③ 園内外の研修

- ・業者委託のキャリアアップオンライン研修をそれぞれ1領域ずつ全員受講した。
- ・該当研修に積極的に参加するとともに、研修報告や分掌企画の研修などを通して学びの共有を図った。

(2) 交流活動

① 東館小学校との交流

- ・幼保小の学びの連続性を図る「架け橋カリキュラム」の共同作成に取り組んだ。小学校との話し合いを重ねる中で育てたい子どもの姿を共通理解し、東館の子どもを皆で育てていくという強い思いがさらに高まった。カリキュラムを土台に年間を通して子ども、職員ともに盛んに交流が行われた。
- ・秋田県主催のエコクラブに所属し、ペットボトルキャップを集め、小学校に届ける活動も行っている。

② 地域との交流

- ・立昌寺、郵便局、隣家、はまなすサロンなど、年間の様々な行事を通して交流を行った。顔の見える機会を重ねることで地域に愛される園となり、3月初め東館地区停電の際（夕方）、向かいの家の方が子どもたちを心配し投光器をもってきてくださるといふ有難く嬉しいお心遣いをいただいた。

令和5年度西館保育園事業報告

1 児童の入所状況（認可定員90名 ※利用定員50名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3
1歳	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
2歳	8	8	8	8	8	8	7	7	8	8	8	8
3歳	9	9	9	9	9	9	9	8	9	9	9	9
4歳	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
5歳	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
合計	46	46	46	46	46	46	45	45	47	47	47	47

うち 障害児保育 2名 定員充足率 93 %

2 職員の配置状況

園長（1） 主任保育士（1） 保育士（8） 保育補助（1）
 調理員（2） 事務員（1） 清掃員（1） 嘱託内科医（1） 嘱託歯科医（1）
 ※調理代替 シルバー委託

3 保育環境の整備

- (1) 園庭フェンス側の枝等撤去整理（安全確保・環境整備）
- (2) 2歳児部屋異臭あり（ネズミの死骸臭か）2月消毒等作業（環境整備）

4 職員について

- (1) 保育士1名 6月退職 7月採用退職 9月～臨時保育士採用

5 感染症への対応

- (1) 手洗い、マスク着用、手指消毒、換気など基本的な防止策を行っている
- (2) 園児、職員は毎日検温し、訪問者も検温・手指消毒を行っている
- (3) 保護者・職員とも体調に異を感じたらすぐ抗体検査やPCR検査を行うなど感染の拡大にならないように注意喚起を適宜行った
- (4) 行事等の内容を検討し以前の形で実施している。

6 その他

- ・コロナ感染 職員1名 9月と3月にり患

7 特徴的な経営

- ① 職員のスキルアップ

- ・保育の振り返りの意義を踏まえ、改めて保育士としての姿勢について考えられるように園内研修や園内研究を展開した。
- ・感恩講主催の勉強会を2回実施し大館北秋田へ案内した。

② 機能する業務組織の推進

- ・未満児以上児のグループ会議・リーダー会・職員会議を連動させ、様々な共有を進めた。

③ 園内外の研修

- ・キャリアアップ研修については、該当研修には参加し、秋の委託研修がオンラインとなり選択した1領域を受講した。

④ 「子どもが主役」の保育実践

- ・指導案作成、保育内容等について保育者にとってではなく子どもにとってどうかという姿勢が定着した。また、職員会議や園内研修の中で講話を行った。

⑤ 交流活動

- ・西館小学校、比内支援学校、郵便局、養牛寺との継続した交流ができた。
- ・職員による交互の授業参観など幼保小連携が円滑であり有意義であった。小学校の長期休業中に年長児の小学校授業体験ができた。(継続予定)

令和5年度社会福祉法人大館感恩講奨学基金事業報告

小学校・中学校・高等学校の新入学児童と高等学校を卒業した就職者に対し、奨学基金から「入学等祝い金」を、理事長からとしたお祝いのメッセージカードを添えて支給した。また、支給時期を3月中として受給者の利便性を図った。

令和5年度の支給内容は次のとおりである。

小学校入学者	3名	$50,000 \times 3 =$	150,000
中学校入学者	1名	$70,000 \times 1 =$	70,000
高等学校入学者	3名	$100,000 \times 3 =$	300,000
合計	7名		520,000

基金残高 2,205,000 円

令和5年度 社会福祉法人大館感恩講収益事業報告

定款第36条の規程に基づき、社会福祉事業に資するために次の収益事業を行った。

1. 所有地の貸付業

大館市南神明町4番1ほか、計14筆 宅地 8,738.71 m²を2法人 11個人に賃貸した。(平均地代 坪1ヶ月当たり182円)

なお、遊休地の一部については駐車場として賃貸し増収を図った。

令和5年度 地代収入決算額 3,275,400円

※南神明町4-1、12-1の土地を、あきた北農協に賃貸していたが、その場所に建っている倉庫の取り壊しにより、土地の一部返還申し出があった。3月21日にあきた北農協、法人事務局長と小林が立ち合い、境界確認と測量の依頼を行った。

その後測量により返還面積が決定した。

現在の状況 2597.83m² 地代 1,735,200円

返還面積 1157.51m² 契約面積 1440.32m²

契約面積による地代 950,464円

令和6年3月31日で現契約を解除し、令和6年4月1日から再契約をすることとした。

2. 駐車場業

大館市字長木川南16番ほか 計3筆 宅地 1,033.26 m²を35区画に分割し、月ぎめ駐車場として賃貸した。1区画あたり賃貸料は月額3,000円とし、近隣同業者との競争力を高めている。夏は除草を行い、冬の積雪に対し除雪ローダーによる除雪を行い利用者の利便性を高めた。

令和5年度 駐車料決算額 967,550円

延べ利用台数 322台 (月平均 26.8台)

3. 収益金の処分

定款第37条の定めにより、収益金は全額社会福祉法人大館感恩講本部拠点区分に繰り出した。

令和5年度 本部拠点区分繰入金支出決算額 1,820,121円